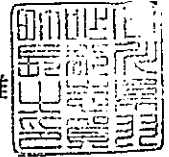




志建第 427 号
平成20年10月7日

国土交通省道路局長様

志賀町長 細 川 義 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった件について、別添のとおり回答いたします。

事 務 担 当
志賀町 建設課
参事 裏 秀和
電話 0767-32-9212（直）

○改善すべき点、要望や提案

「道路」は、住民の安全・安心の確保や経済・社会活動を支える最も基礎的な社会基盤である。特に志賀町においては、多様な交通手段を有する大都市圏とは異なり、移動に当たっては、自動車に頼らざるを得ないため、今後とも着実に整備を進めていくことが必要であり、そのためには安定的な財源を確保していくことが不可欠である。

道路特定財源については、来年度から一般財源化する方針が示されたところである。しかし、地方においては、道路特定財源だけでは不足し、すでに多くの一般財源を投入して、必要な道路整備を行っているのが実態である。よって、国においては、地方の実態を十分に踏まえ、年内に行われる税制の抜本改革にあたっては、道路整備に必要な財源を確保するとともに地方への配分割合を高めること。また、地方道路整備臨時交付金制度についても、その趣旨を鑑み、地方が主体的に道路整備が行えるような財源を確保・拡充することを機会あるごとに関係機関に対し強く要望しています。

①高速道路や都市部での幹線道路の整備のみならず、地方の道路整備推進の観点から事業採択基準を緩和することにより地方道路の整備促進を図り、また、老朽化した現有施設や大型構造物の適切で安全管理に主眼を置いた道路行政が必要と考ええる。

②平成26年度に能登の大動脈である能登有料道路が無料化になる予定でありますが、道路公社の債務残額は県が負担することとなり、県の財政からみて、従来の通行料を財源としたときのような維持管理ができなくなり、走行路面の悪化や安全施設の不足など大きな問題が発生することが懸念されます。能登で唯一の高速走行のできる社会資本として地域の最も重要な経済・社会活動を支える施設の機能を保持しないことには住民意識の中で更なる地域格差が生まれることが考えられる。

③着実に道路整備を進めていくためには安定的な財源確保が不可欠である。道路特定財源については、来年度から一般財源化する方針が示されたところである。道路整備に必要な財源を確保し地方への配分割合を高め、地方が主体的に道路整備が行えるような財源を確保・拡充出来るのか不明瞭であり、これを明確にする必要があると考ええる。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－１地域の：現状と抱える課題

石川県 志賀町

○現状 市町村における行政としての規模の拡大や効率化を図り、行政サービスを維持・向上させるため、平成１７年９月１日に志賀町と富来町が合併して「志賀町」が誕生しました。道路は地域住民の生活や経済・社会活動を支える最も重要な社会資本であり、その整備の充足を住民は長年にわたり熱望し、且つ、行政に対する最も大きなリクエストであることは、住民及び各種団体との懇談会において必ず要望される事項であることから、両町の受益者負担率に相違があるままに合併したことにより、地域格差が生じているのが現状であります。	○課題 ①合併した両町の道路整備率に開きがあることから、限られた道路財源で均衡を図りながら整備をしているが、不均衡を是正するには、まだ時間を要するようである。 ②合併により道路事業の受益者負担であります、旧志賀は無く、旧富来町は１０％となっていることとあります。 ③上記の状況下、年金生活の高齢者しか生活していない集落では受益者負担が出来ないのが現状であるが、道路は公共性の最も高い社会資本であることから、受益者が事業負担することは公平性を保つために必要なことと思うが、両町の負担率の一元化をする時期の判断が難しい。
---	--

今後の道路行政についての意見・提案

②－２地域の目指すべき将来像

様式③

石川県 志賀町

○現状 市町村における行政としての規模の拡大や効率化を図り、行政サービスを維持・向上させるため、平成１７年９月１日に志賀町と富来町が合併して「志賀町」が誕生しました。これに併せて町は平成２８年度を目標年度とする総合的な町の将来ビジョンと町政の在り方を示した第一次志賀町総合計画を策定し、町の将来像を「夢・未来の創造 笑顔あふれる能登ふれあいの郷」とし、その実現のために６つの基本方針のもと、１６７の主要事業を設定し、未来に向けて飛躍するまちの創造を目指すこととしております。福祉や教育も重要であるが、道路は地域住民の生活や経済・社会活動を支える最も重要な社会資本であり、その整備の充足を住民は長年にわたり熱望し、且つ、行政に対する最も大きなリクエストであることは、住民及び各種団体との懇談会において必ず要望される事項であることから、総合計画には交流・連携の整備として「広域交流軸」「地域連携軸（地域幹線道路）」「地域連携軸（地域連絡道路）」を柱として道路事業の推進に努めているところであります。	○課題 交流・連携軸の整備として「広域交流軸」「地域連携軸（地域幹線道路）」「地域連携軸（地域連絡道路）」を柱として道路事業の推進に努めることとしていますが、地域住民は幹線道路や地域間連絡道路のほかに集落内の小規模な維持管理維持修繕的な工事の要望が多いことから、身近な環境整備事業を考える必要もあるのではと思っておりますが、これにもかなりの財源を必要とすることから財源確保が課題となっている。
---	--

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

石川県 志賀町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
都市交通の快適性、利便性の向上	都市計画街路福野神代線築造工事 （事業主体：志賀町）	国道249号線から市街地の中心部であるバスターミナル、商店街を経由し、志賀町の文化ゾーンと位置づけされている柴木公園、文化ホールまでが整備され、既存の改良済み町道と接続し志賀の郷リゾートエリアへのアクセス道路として今年度完成することとしており、今後はその機能を十分に発揮するものと期待している。	○ その他 当町の3大プロジェクトである企業誘致・電源開発・志賀の郷開発の1つである志賀の郷開発の支援道路となっている。
地域活力の向上	都市計画街路地頭町線築造工事 （事業主体：石川県）	富来地区の中心商店街の前面道路は平成13年度に349mが整備されましたが商店街と国道を結ぶ420m区間は未整備であることから、これを整備し中心商店街を核としてにぎわい創出が期待できる。	合併に伴う石川県の支援道路として位置づけられている。
地域間交流の向上	町道鹿頭酒見線道路整備事業 （事業主体：志賀町）	志賀町の最も北に位置する西浦地区は従来、幅員の狭い県道及び町道を利用して市街地に出ていたことから、町は合併を機に当該町道の整備を過疎債事業として平成23年度完成を目指し進めており、完成により地域間の交流が容易になると期待できる。	新町まちづくり計画の中での最も事業費の大きい単独道路事業である。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

石川県 志賀町

○重点事項 地域活力の向上	○代表事例 都市計画街路大島今市線築造工事 【大島千鳥ヶ浜シーサイドエリア整備事業】 （事業主体：志賀町）	○期待する効果や評価等 当路線は、高浜市街地と大島キャンプ場を結び国道へアクセスすることから、当該道路整備は観光資源に更なる付加価値を与えることにより観光の町志賀をアピールし、併せて大島集落の活性化に寄与することができると思われる。	○その他 大島キャンプ場は、日本海側最大級の500サイトで設営可能で車で直接サイトまで乗り入れることのできるオートキャンプ場です。周辺の環境は、白砂青松の海岸で遠浅の海は透明度が高く日本の水浴場88選にも選ばれた人気のスポットである。
------------------	--	---	--